

世界のデビットカード —— 第6回・中国

中国では、日本の人口の6倍以上である約8億枚のデビットカードが発行されています。しかし、その利用の大半は、いわゆる日本でいうキャッシュカードの使われ方が占めているのが実態でした。そんな中国のカード事情ですが、中国統一ネットワークの稼働と国際ブランドカードの受け入れにより急速に市場環境が改善され、いま最もホットなマーケットとして世界中の注目を集めています。
(提供:月刊「カード・ウェーブ」)

7.8億枚のデビットカード

13億人と圧倒的な人口数を誇る中国ですが、その膨大なマーケットサイズに対して決済のキャッシュレス化はこれまであまり進んでいませんでした。

とはいいながらも、その発行枚数は膨大です。05年4月現在でクレジット、デビットを含む銀行カードの総発行枚数は約8億枚に上り、これが年率30%以上の伸びを見せながら成長を続けています。このうち約7.8億枚と実に全体の97%以上を占めているのがデビットカード(借記カード)です。

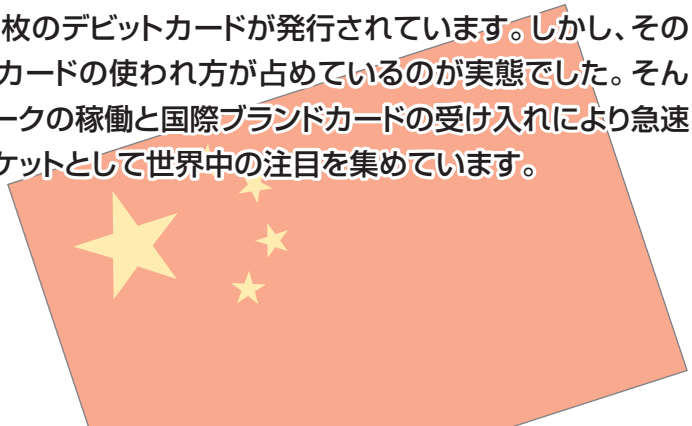
その機能は、預金残高の範囲内でお店でのショッピングに利用できるというもので、日本のジェイデビットとほとんど変わらないといえます。しかし、利用の実態を見ると、9割以上をATMでの現金入出金と振替が占めており、買い物用途にはほとんど使われていません。この背景には、後述するように加盟店ネットワークの問題などがあったようです。

6番目の国際ブランドを目指す“銀聯”

ところで中国の銀行カードは2000年代の初頭まで、中国銀行なら「長城カード」、中国工商銀行は「牡丹カード」といった具合にそれぞれ互換性のないカードを発行していました。このため加盟店は、処理するカードごとに複数台の決済端末を用意する必要がありました。

大きな変化が訪れたのは、2002年3月に中国の中央銀行にあたる中国人民銀行の主導で設立された中国銀聯株式会社(ギンレン:China Union Pay Co., Ltd)の営業開始がきっかけでした。これによって念願の中国統一ペイメントネットワークが実現し、2003年までに中国国内で発行された国内専用カードのすべてに「銀聯」ロゴの掲載が義務付けられました。以降、銀聯には国内専用カードによるクレジット決済、デビット決済の全トランザクションが通過するようになり、文字通り中国のカードネットワークの心臓部を担う存在感を示しています。

05年4月現在、銀聯カードの発行枚数は約8億枚、加盟店数



▲中国銀行の「銀聯」デビットカード



▲銀聯のロゴマーク

は56万店に上ります。

銀聯は、旅行者が中国国内の銀聯加盟店でVISA、MasterCardなどの国際ブランドカードを利用するニーズに考慮して、各国際ブランドネットワークと接続することで海外発行カードの受け入れにも対応しています。またその一方で、昨年からは銀聯ブランドの海外進出に積極的に乗り出しており、05年中にも10カ国での取り扱いが始まる見込みです。

VISA、MasterCard、JCB、アメックス、ダイナースクラブに続く6番目の国際ブランドとして、日本に上陸する日もそう遠くないかもしれません。

新刊案内

月刊「カード・ウェーブ」
7月号

「特集 銀行のクレジット
カード戦略を追う」

<http://www.c-media.com/>



日本デビットカード推進協議会

東京都千代田区大手町2-2-2 NTT DATA 大手町ビル10階
[事務局] [ヘルプデスク]
電話 03 (3243) 0781 電話 03 (3986) 7960
Fax 03 (3243) 0782 Fax 03 (3590) 9223
e-mail info@debitcard.gr.jp (ご意見・ご感想等お寄せ下さい)



[会員・加盟店登録状況] (平成17年6月20日現在)

金融機関会員 1,826	特別会員 2
加盟店会員 165	賛助会員 114
登録加盟店 980	

※端末設置台数 全国約25万ヶ所以上